**5 中島　敦『名人伝』**

①気負い立を迎えたのは、羊のような柔和な目をした、しかしひどくよぼよぼのさんである。年齢は百歳をも超えていよう。腰の曲がっているせいもあっては歩く時も地に引きずっている。

相手は耳が聞こえないかも知れぬと、大声にあわただしく紀昌はⓐライイを告げる。②が技のほどを見てもらいたい旨を述べると、あせり立った彼は相手の返辞をも待たず、いきなり背に負うの弓をはずして手に取った。そうしての矢をつがえると、折から空の高くを飛び過ぎて行く渡り鳥の群れに向かっていを定める。弦に応じてたちまち五羽の大鳥が鮮やかにを切って落ちて来た。

(ア)ひととおりできるようじゃな、と老人が穏やかな微笑を含んで言う。だが、それはというもの、好漢いまだを知らぬと見える。ムッとした紀昌を導いて、老隠者は、そこから二百歩ばかり離れた絶壁の上まで連れて来る。ⓑキャッカは文字どおりののごとき立千、はるか真下に糸のような細さに見えるをちょっとのぞいただけでたちまちを感ずるほどの高さである。そのから半ば宙に乗り出した危石の上につかつかと老人は駆け上り、振り返って紀昌に言う。どうじゃ。この石の上で先刻の業を今一度見せてくれぬか。いまさら引っ込みもならぬ。老人と入れ代わりに紀昌がその石をふんだ時、石はかすかにグラリと揺らいだ。強いて気を励まして矢をつがえようとすると、ちょうどの端から小石が一つ転がり落ちた。その行方を目で追うた時、覚えず紀昌は石上に伏した。脚はワナワナとふるえ、汗は流れてにまで至った。老人が笑いながら手を差し伸べて彼を石から下ろし、みずから代わってこれに乗ると、では射というものをお目にかけようかな、と言った。まだがおさまらず、ざめた顔をしてはいたが、紀昌はすぐに気がついて言った。しかし、弓はどうなさる？　弓は？　老人はⓒスデだったのである。弓？　と老人は笑う。弓矢のいるうちはまだ射之射じゃ。不射之射にはの弓の矢もいらぬ。

ちょうど彼らの真上、空のきわめて高い所を一羽のがゆうゆうと輪をいていた。そのほどに小さく見える姿をしばらく見上げていが、やがて、見えざる矢を無形の弓につがえ、満月のごとくに引き絞ってひょうと放てば、見よ、鳶は羽ばたきもせず中空から石のごとくに落ちて来るではないか。

紀昌は(イ)とした。今にしてはじめて芸道の深淵をのぞき得た心地であった。

語　注

紀昌＝この物語の主人公。弓の名人を目指している。

白髯＝白いほおひげ。

楊幹麻筋の弓＝柳の幹を麻糸で巻いた強い弓。

石碣の矢＝石碑をも貫くような鋭い矢。

一箭＝一本の矢。

壁立千仭＝壁のように険しく、非常に深い谷間。

烏漆の弓＝真っ黒に漆を塗った弓。

粛慎の矢＝古代中国北方の粛慎国が貢ぎ物にした矢。

甘蠅＝ここで登場する老人の名。

漢字　二重傍線部ⓐ〜ⓒのカタカナを漢字に直せ。

（３点×３）

ⓐ〔　　　　　〕　ⓑ〔　　　　　〕　ⓒ〔　　　　　〕

問１　波線部(ア)・(イ)の語句の意味として最も適当なものをそれぞれ次から選べ。（４点×２）

(ア)

ア　十分に完成している

イ　完成はしていないがよくできる

ウ　たいしたことではないが一応のことはできる

エ　普通のことはできないが少しだけできる

オ　基本的な考えはわかっている

〔　　　〕

(イ)

ア　恐ろしさにふるえた。

イ　驚いてなにも言えなかった。

ウ　尊敬の気持ちでいっぱいになった。

エ　不意をつかれ訳がわからなくなった。

オ　恥ずかしさに身を縮めた。

〔　　　〕

問２　傍線部①について、このような「爺さん」のイメージ（人物像）が変化するのはどこからか。イメージが変化する文の最初の五字を抜き出せ。（７点）

〔　　　　　　　　〕

問３　傍線部②と言ったときの紀昌の気持ちとして、最も適当なものを次から選べ。（７点）

ア　自分の技に全く自信がないので恥ずかしいが、教えをこうために見てもらいたい。

イ　自分の技に強い自信はあるが、高名な先生と比べるとどうかわからないので見てもらいたい。

ウ　自分に才能があるかどうかわからないので、高名な先生に判定してもらうために見てもらいたい。

エ　自分の才能にも技にも強い自信があり、自分よりできる者はいないことを示すために見てもらいたい。

オ　自分の技に強い自信があり、それを高名な先生に認めてもらうために見てもらいたい。

〔　　　〕

問４　本文の一番の山場（盛り上がったところ）はどこか。一文の最初の五字を抜き出して示せ。（７点）

〔　　　　　　　　〕

問５　紀昌の弓の技と老人の弓の技の違いを表した言葉をそれぞれ五字以内で抜き出し、その内容をそれぞれ十字以内で説明せよ。（３点×４）

紀昌　〔　　　　　　　　〕〔　　　　　　　　　　　　　　　〕

老人　〔　　　　　　　　〕〔　　　　　　　　　　　　　　　〕

練習問題〈慣用句〉

次の慣用句の（　）に入る言葉を後から選べ。

①（　　　）の川流れ

②（　　　）に角をたてる

③（　　　）の行水

④（　　　）を明かす

⑤（　　　）が知らせる

⑥（　　　）に汗を握る

⑦（　　　）に油揚げをさらわれる

⑧（　　　）に衣着せぬ

⑨（　　　）の手も借りたい

⑩生き（　　　）の目を抜く

⑪（　　　）につままれる

⑫（　　　）の子を散らす

⑬（　　　）の尾を踏む

⑭（　　　）の鳴くような

⑮立つ（　　　）あとを濁さず

ア　歯　　イ　目　　ウ　手　　エ　鼻　　オ　猫

カ　　キ　馬　　ク　　　ケ　鳥　　コ

サ　虫　　シ　蚊　　ス　　　セ　　ソ

【解答】

漢字　ⓐ来意　ⓑ脚下　ⓒ素手

問１　(ア)＝ウ　(イ)＝ア

問２　その断崖か

問３　オ

問４　その胡麻粒

問５（紀昌）射之射（３字）　　　弓矢を使って射る　（８字）

　　（老人）不射之射（４字）　　弓矢を使わずに射る（９字）

【練習問題解答】

1. セ　②イ　③ソ　④エ　⑤サ　⑥ウ　⑦ク　⑧ア　⑨オ　⑩キ　⑪ス

⑫カ　⑬コ　⑭シ　⑮ケ

【50字要約例】

弓の技を磨くため弓の名人を訪ねた紀昌は、「不射之射」という弓矢を持たない技を見て、慄然とする。（47字）

▼補充問題▲

＊本文「つかつかと」を空欄ａ、「グラリと」を空欄ｂ、「ワナワナと」を空欄ｃ、「ゆうゆうと」を空欄ｄとして、

問　空欄ａ、ｂ、ｃ、ｄに入る語句として最も適当なものを、それぞれ次から選べ。

ア　よたよたと　　イ　ゆうゆうと　　ウ　ふわふわと

エ　つかつかと　　オ　せかせかと　　カ　ユラリと

キ　グラリと　　　ク　ワナワナと　　ケ　ザワザワと

コ　ズルズルと

答　ａ＝エ　　ｂ＝キ　　ｃ＝ク　　ｄ＝イ

＊本文「老人が笑いながら」に傍線ａ、「老人は笑う」に傍線ｂを施し、

問　傍線部ａ「老人が笑いながら」、ｂ「老人は笑う」とあるが、紀昌に向けられた老人の「笑い」とはどういうものか。最も適当なものを次から選べ。

ア　微笑　　イ　苦笑　　ウ　冷笑　　エ　　　オ　朗笑

答　オ